

平成年度厚生労働科学研究費補助金

医療技術総合評価事業

「遠隔医療の実施状況の実態調査」研究班

(略称:遠隔医療調査研究班)

3月5日報告会のご案内

アンケート調査のページ

研究の背景

1996年に開始された厚生科学研究費・情報化施術開発研究事業「遠隔医療に関する研究」(通称「開原班」研究)が契機となり、多数の遠隔医療の取り組みが開始されました。それは、新たな医療提供の方法として注目を集めており、厚生労働省をはじめとした各省庁や地方公共団体の支援などを得て、IT技術の進歩を追い風に多くの医療機関や組織で実施されるようになってきました。本年3月には厚労省から医政発第0331020号「情報通信機器を用いた診療いわゆる「遠隔診療」について」の一部改正について」が発行され、一層発展の機運が高まっています。一方で実施件数の急増により、実態や社会的影響の包括的把握が難しくなり、今後の医療における遠隔医療の位置付けやその効果の評価が困難になり、遠隔医療を厚生労働行政に位置付ける上で大きな障害となっています。そこで、今後の行政や産業界の基礎資料となるよう、現状の遠隔医療の取り組みを網羅的に調査し、国内の遠隔医療の実態を把握し、その内容や社会的影響度、定着度、効果、今後の発展のための課題の調査研究を行うために平成15年度厚労省科研費研究班が編成されました。本研究班では、テレラジオロジー、テレパソロジー、テレケア、遠隔手術などに関する網羅的調査を実施いたします。この中でテレラジオロジー、テレパソロジーについては関連学会も含めた調査活動が進んでいます。しかしながらテレケアについては、広範に展開されているにもかかわらず、まとまった調査を行う組織が存在せず、テレケアに関する政策の遅れにつながる恐れがあります。こうした種々の問題点を乗り越えて、日本の遠隔医療の現況を明らかにしたいとの気運が高まっています。

研究の目的、必要性及び期待される成果

国内で遠隔医療が市民権を得るためには、技術・政策・制度的にも総合的に計画された活動を進めること必要であり、そのための基本的資料として、国内における遠隔医療実施状況の網羅的把握は必須の課題です。本研究班の研究活動は、今後の遠隔医療政策立案のための基盤的情報として、個別の取り組みの存在、概要、現状を網羅的に調査することを目的とします。本研究の結果、国内の遠隔医療の全体像を呈示できれば、統一的方向付けを持って遠隔医療の研究開発や実施運用の機運も醸成され、さらに効果的・効率的な遠隔医療の実現、技術の標準化、法的問題の明確化が進むと期待されます。情報産業・医療産業が指針をもって、遠隔医療に参加することができれば、遠隔医療はIT産業の主要な核として、また、21世紀の国民健康増進の重要な手法として国民に寄与できるようになります。

本研究班に関連する国内・国外における研究状況

1996年から3年間に渡る厚生科学研究費・情報化施術開発研究事業「遠隔医療に関する研究」(開原班研究)が進められ、当時の遠隔医療の取り組みの網羅的調査から、今後の課題・展望まで幅広い研究成果が得られました。これらが本研究に類する国内での唯一の研究です。それ以

降、特にここ数年、遠隔医療に関する通信サービスや情報機器などの環境が飛躍的に発展し、その状況も大きく変化しています。テレパソロジーとテレラジオロジーについては、関連学会で実施例調査を行ったことがあります。2002年には開原班の継続研究で小規模な調査は為されました。また2003年7月に「新医療」別冊、IT医療白書03が発刊され、その中に国内での実施状況の一覧が掲載されました。しかしながら政策に有用な項目の内容での網羅的調査研究は行われていません。特にテレケアに関する調査は、IT医療白書03以外では行われていません。

研究方法について

(1)国内の遠隔医療実施に関わる施設に対して、実施状況をお答えいただくアンケートを行います。

・国内の医療施設、関係施設に対して、アンケートの依頼票をお送りいたしました。ご協力をよろしくお願い致します。・遠隔医療実施機関の皆様は、1月半ばを過ぎてもアンケート依頼票が届かない場合、アンケート調査のページを参照の上で、ご連絡いただきたいと存じます。

アンケート調査のページ

・アンケート回答の結果を集計して、国内の遠隔医療実施状況を分析致します。

・アンケートでお答えいただいた内容について、必要に応じて電話や電子メールによる追加の調査を行うケースがあります。

(2)いくつかの事例について、研究班員からの直接調査を行います。

本研究班について

本研究班は、日本医療情報学会遠隔医療研究会の幹事で構成されております。遠隔医療という新分野であるので大学人、病院関係者、企業研究者などの横断的な人材が集まり、特定の利益に偏ることなく遠隔医療の普及・発展に力を合わせています。

(研究班組織・担当)

統括	村瀬澄夫(信州大)	主任研究者
北海道・東北担当	廣川博之(旭川医大)	分担研究者
信越・北陸・中部担当	滝沢正臣(信州大)	研究協力者
中国・四国・九州担当	本多正幸(長崎大)	分担研究者
関東・近畿都市圏担当	秋山昌範(国立国際医療センター)	分担研究者
全国のテレケア担当	鎌田弘之(岩手医大)	分担研究者
全国の広義の遠隔医療担当	酒巻哲夫(群馬大)	分担研究者
全国テレラジオロジー担当	長谷川高志(セコム株)	研究協力者

全国テレパソロジー担当	東福寺幾夫(オリンパス株)	研究協力者
通信技術調査担当	水島洋(国立がんセンター)	研究協力者

倫理面への配慮

遠隔医療の多くは対象患者が少数と予想されます。研究情報の公開が、患者個人の特定に直結する事例もあり得ると思われれます。したがって、事例内容に収集にあたっては、個人情報排除した調査を行う必要があります。それについては、研究班直接の作業だけでなく、研究の一部を委託する場合の、委託先にも適用されます。研究成果も、集計結果をしめし、統計的に扱う。個別情報開示が必要な場合、該当者の承諾書を得ることなど、必要な手順を細心の注意を払って進める必要があります。

連絡先 宛先: 信州大学医学部附属病院医療情報部内「遠隔医療調査研究班」事務局

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

TEL 0263-37-3016

FAX 0263-37-3091

e-mail telmed-research@hsp.md.shinshu-u.ac.jp

平成15年度厚生労働省科学研究費補助金

医療技術評価総合研究事業

遠隔医療実施状況の実態調査

第二回報告会のご案内

1996年に開始された厚生科学研究費・情報化施術開発研究事業「遠隔医療に関する研究」(通称「開原班」研究)が契機となり、多数の遠隔医療の取り組みが開始されました。遠隔医療は、新たな医療提供の方法として注目を集めており、厚生労働省をはじめとした各省庁や地方公共団体の支援などを得て、IT技術の進歩を追い風に多くの医療機関や組織で実施されるようになってきました。2003年3月には厚労省から医政発第0331020号「情報通信機器を用いた診療(いわゆる「遠隔診療」)について」の一部改正について」が発行され、一層発展の機運が高まっています。

一方で実施件数の急増により、実態や社会的影響の包括的把握が難しくなり、今後の医療における遠隔医療の位置付けやその効果の評価が困難になりました。そこで今後の行政や産業界の基礎資料となるよう、現状の遠隔医療の取り組みを網羅的に調査し、国内の遠隔医療の実態を把握し、今後の発展のための課題の調査研究を行うために、平成15年度厚労省科研費による本研究班が編成されました。

本研究班では、テレラジオロジー、テレパソロジー、テレケア、遠隔手術などに関する網羅的調査と各地域ごとの遠隔医療の状況、テレケア、テレラジオロジー、テレパソロジーなどの各遠隔医療領域の状況に関する調査研究を行いました。

本研究班に関する公開報告は、第二回目です。第一回は、第七回遠隔医療研究会と同時開催で、研究計画をご報告致しました。この度、研究終了に合わせてその研究成果を広く公開するために、第二回報告会を開催する運びとなりました。

参加費は無料です。どなたでもご自由にご参加いただけます。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

平成16年2月23日
主任研究者 村瀬澄夫(信州大学)

問い合わせ先

宛先: 信州大学医学部附属病院医療情報部内「遠隔医療調査研究班」事務局
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
TEL 0263-37-3016 FAX 0263-37-3091
e-mail telemed-research@hsp.md.shinshu-u.ac.jp
研究班ホームページ: <http://sumis.md.shinshu-u.ac.jp/telemed/index.htm>

—— 開催概要 ——

開催期日 平成16年3月5日(金曜日) 13時30分～16時30分
会場 東京国際フォーラム G402号室 (東京、有楽町)
会場への交通のご案内

参加費用 無料
参加資格 制限ありません。どなたでもご参加ください。
参加申し込み 不要です。
会場の席数に制限がありますので、早めにお越しください。

プログラム

13時30分～13時35分

I. 開会のご挨拶 研究班長 村瀬澄夫(信州大学)

13時35分～13時45分

II. 来賓のご挨拶 高本和彦 室長補佐(厚生労働省)

13時45分～14時15分

III. 研究の概要と経過 研究班長 村瀬澄夫(信州大学)

14時15分～14時30分

IV. アンケート調査について 長谷川高志(セコム)

14時30分～15時10分

V. 各地の遠隔医療の概況

(1) 北海道・東北

廣川博之(旭川医科大学)

(2) 上信越・中部

滝沢正臣(信州大学)

(3) 関東・近畿

秋山 昌範(国立国際医療センター)

(4) 中国・四国・九州

本多 正幸(長崎大学)

休憩 15時10分～15時25分

15時25分～16時5分

VI. 遠隔医療の種別毎概況

(1) 全般

酒巻 哲夫(群馬大学)

(2) テレケア

鎌田 弘之(岩手医科大学)

(3) テレパソロジー

東福寺 幾夫(オリンパス)

(4) テレラジオロジー

長谷川 高志(セコム)

16時5分～16時10分

VII. 閉会のご挨拶

研究班長 村瀬 澄夫(信州大学)

遠隔医療のアンケート調査

ご説明

調査は下記のカテゴリーに分けて行われております。

1. テレパソロジー実施施設
2. テレラジオロジー実施施設
3. テレケア、その他の遠隔医療実施施設

各施設には、上記のどれか、もしくは複数の調査依頼状が送られます。

依頼状にはアンケート回答用紙と返信用封筒が同封されております。
回答をご記入の上で、返信用封筒でお送りいただきたいと存じます。

不明な点などは後述の連絡先に、お電話、電子メールでお問い合わせください。

オンライン回答

下記のURLより、オンラインで回答することが可能です。その場合、調査票の返信（郵送）は不要となります。

http://sumis.md.shinshu-u.ac.jp/telemed/telemed_study.html

回答フォーム内の選択欄では、選択肢の中から適切なものを選んで、クリックしてください。記述欄には、お答えを文字・数字でご記入ください。
最後に「登録」ボタンを押すことをお忘れにならないよう、お気をつけください。登録されませんと、事務局側サーバーにデータが残りません。

ダウンロード

また、回答用紙、依頼状は下記よりダウンロードできます。ご利用ください。

1. テレパソロジー回答用紙
2. テレラジオロジー・テレケア・その他遠隔医療の回答用紙
3. テレパソロジー調査依頼状
4. テレラジオロジー調査依頼状
5. テレケア・その他遠隔医療の調査依頼状
6. メールでのご案内状

回答期限

2004年1月23日（金） 消印有効（郵送、オンライン共）

調査依頼状が届いていない施設へのご案内

もし、貴施設で遠隔医療が実施されているにも関わらず、調査依頼状が1月15日までに届かない場合は、事務局にご連絡いただきたいと思います。
依頼状・回答用紙をお送り致しますので、ご回答よろしくお願い申し上げます。

連絡先

信州大学医学部附属病院医療情報部内「遠隔医療調査研究班」事務局

・ 890-8621・ . . . 県

Tel 0263-37-3016 FAX 0263-37-3091

e-mail telmed-research@hsp.md.shinshu-u.ac.jp

遠隔医療調査研究登録フォーム 031024-4版

複数種別の遠隔診療を実施の場合は、それぞれ別に登録して下さい。

1 運営者概要

施設名			
担当者氏名			担当者所属
連絡先 電話番号			電子メール

施設分類 1) 大学病院 2) 公的病院 3) 民間病院 4) 公的診療所 5) 民間診療所
6) 画像診断・読影センター(企業) 7) 個人事務所・企業 8) その他
 病床数 1) 500床以上 2) 200床以上 3) 20床以上 4) 20床以下 5) なし

*今後の調査の参考にしたいと思っておりますので、主要な連携施設名と担当者名の記載をお願いします。

施設名			
担当者氏名			担当者所属
連絡先 電話番号			電子メール

2 遠隔医療の内容

1 遠隔医療の主な目的(複数の目的がある場合は、お手数をおかけしますが、それぞれ別に登録して下さい)

1) 診断支援

1) 放射線画像診断を依頼 2) 放射線画像診断を行う
3) 病理画像診断を依頼 4) 病理画像診断を行う
5) 診療コンサルテーションを依頼 6) 診療コンサルテーションを行う
7) その他 (その他の画像診断・診断支援) -> 4) その他の遠隔医療へ内容を記載願います。

2) 医療支援行為

8) 手術指導を受ける 9) 手術指導を行う
10) カテーテルインターベンションの指導を受ける 11) カテーテルインターベンションの指導を行う
12) その他 (その他の医療支援行為) -> 4) その他の遠隔医療へ記載願います。

3) テレケア(健康管理相談)

☉13)TV電話などの画像を使う ☉14)TV電話は使わず生体情報(血圧、心電図、酸素飽和度等)のみ ☉15)その他(その他のテレケア) → 4)その他の遠隔医療へ内容を記載願います。

4) その他の遠隔医療

2 主な利用機器

☉1)テレビ電話 ☉2)パソコン ☉3)健康管理端末(通信機能付血圧計、心電計等)
☉4)携帯電話 ☉5)一般電話 ☉6)その他

3 遠隔医療の主な接続先

☉1)病院・診療所 ☉2)保健・介護施設 ☉3)利用者・患者宅 ☉4)画像診断・読影センター
☉5)その他

4 遠隔医療実施の主な診療科

1)機器を実際に使用している方の所属

☉1)内科 ☉2)小児科 ☉3)皮膚科 ☉4)精神科 ☉5)放射線科 ☉6)外科 ☉7)整形外科
☉8)脳外科 ☉9)歯科口腔外科 ☉10)泌尿器科 ☉11)眼科 ☉12)耳鼻科
☉13)産婦人科 ☉14)麻酔 ☉15)保健・介護施設 ☉16)その他

2)機器を実際に使用している方の職種

☉1)医師 ☉2)看護師 ☉3)技師 ☉4)療法士 ☉5)保健師 ☉6)介護施設従業員
☉7)その他

5 連携施設数あるいは接続家庭数

☉1)1施設のみ ☉2)2~5 ☉3)5~10 ☉4)10以上 ☉5)20以上 ☉6)50以上

6 現在運用継続の場合、利用頻度

☉1)ほぼ毎日 ☉2)毎週数回 ☉3)毎月数回 ☉4)年に数回 ☉5)それ以下

7 機器を利用して情報交換した患者・利用者の一ヶ月間の概数

☉1)5人以下 ☉2)6~10人 ☉3)11~30人 ☉4)31~50 ☉5)それ以上

8 すでに終了の場合、運用期間

☉1)数日 ☉2)数週間 ☉3)数ヶ月 ☉4)半年以上 ☉5)1年以上

9 通信経路

☉1)ISDN ☉2)ADSL ☉3)CATV ☉4)光ファイバー ☉5)移動通信(携帯電話,PHS)
☉6)一般電話回線 ☉7)その他

10 当該遠隔医療の有用度(主観的判断で結構です)

☉1)低い ☉2)やや低い ☉3)普通 ☉4)やや高い ☉5)高い

11 運用のための費用負担感(主観的判断で結構です)

☉1)低い ☉2)やや低い ☉3)普通 ☉4)やや高い ☉5)高い

12 遠隔医療から収入を得ているか

- 1)なし 2)ごくわずか 3)月額数万 4)月額数十万 5)それ以上

13 保険請求の有無

- 1)なし 2)あり

3 今後の遠隔医療に重要な事柄

(1重要性は低い-3どちらとも言えない-5重要)

14 診療報酬(保険点数)化

- 1 2 3 4 5

15 機器や回線利用料が高い

- 1 2 3 4 5

16 遠隔医療の効果の実証データ

- 1 2 3 4 5

17 プライバシーの保護

- 1 2 3 4 5

18 使い勝手の良い機器やサービス(企業によるサポート)

- 1 2 3 4 5

19 医療の質の担保

- 1 2 3 4 5

4 自由に記載して下さい。

5 登録者氏名

各項目を記入の上ボタンを押して下さい。

平成15年度厚生労働省科学研究費補助金 医療技術評価総合研究事業
「遠隔医療の実施状況の実態調査」研究班（略称：遠隔医療調査研究班）

テレパソロジー実態調査票

回答年月日（_____年____月____日）

★は重要項目、★★は絶対に欠かせない項目です。ご協力をお願いします。

1. ご回答施設について

(1) 施設名：テレパソロジー担当部署名までお書きください

★★(施設名：_____)

★(テレパソロジー実施部署名：_____)

★(施設の種類：該当する番号に○をしてください、複数可)

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1 大学医学部 | 2 大学病院 | 3 特定機能病院 |
| 4 病理学会認定病院 | 5 病理学会登録病院 | 6 へき地中核病院 |
| 7 臨床研修指定病院 | 8 公的一般病院 | 9 民間一般病院 |
| 10 公的検査機関 | 11 民間検査機関 | |

(2) ご回答者氏名・職名★★(_____)

(3) 住所

★★(郵便番号：_____)

★★(住所：_____)

(4) ★★電話 (_____)

(5) ★病床数 (_____床、内一般病床_____床)

(6) ★手術件数(2002年) (_____件/年)

(7) ★術中迅速診件数(2002年) (_____件/年)

(8) ★★テレパソロジーを使用していますか。(該当する番号に○)

- 1 現在依頼側として使用中、
- 2 現在観察側として使用中
- 3 過去使用したが、もう止めた。 → 最後のページ(13)へ
- 4 購入したが、使っていない。 → (その理由：_____)

2. 貴院での病理診断業務状況(2002年)について

(1) 病理医 ★★(常勤病理医：_____人)(非常勤病理医：_____人)

(2) 技師 ★★(病理専任技師：_____人)(兼任技師：_____人)

(3) 病理診断件数★★(組織診：_____件/年、内外注 _____件/年)

★★(細胞診：_____件/年、内外注 _____件/年)

★★(剖検数：_____件/年、剖検率：_____%)

3. テレパソロジーシステム情報

(1) 自施設のテレパソロジー端末

★★(メーカー: _____) (システム名: _____)

★★ (顕微鏡遠隔操作: 1 可、 2 不可)

★★ (画像方式: 1 静止画、 2 動画、 3 ハイブリッド)

★ (画像サイズ: 静止画 _____ × _____、 動画 _____ × _____)

★ (通信回線: _____) (通信速度: _____)

(2) 相手先施設の状況 (依: 依頼側、 観: 観察側、 いずれかに○)

番号	自施設の役割	相手先施設名★★	相手先システム名 (メーカー)	導入年月 (西暦)
1	依・観			
2	依・観			
3	依・観			
4	依・観			
5	依・観			
6	依・観			
7	依・観			
8	依・観			
9	依・観			
10	依・観			

4. テレパソロジーの実施件数 (全相手先施設合計)

	1993 年	1994 年	1995 年	1996 年	1997 年	1998 年	1999 年	2000 年	2001 年	2002 年
術中迅速診断										
組織診 コンサル										
細胞診 コンサル										
その他										
総合計 ★★										

5. テレパソロジーの導入目的と効果について

(1) ★★テレパソロジーの導入目的 (該当する番号に○) と今後の利用動向の予想を

お聞かせください。

- 1 術中迅速診断実施中、今後は（1増加、2不変、3減少）
- 2 コンサルテーション実施中 今後は（1増加、2不変、3減少）
- 3 細胞診実施中、今後は（1増加、2不変、3減少）
- 4 その他（具体的に： _____）
、今後は（1増加、2不変、3減少）

(2) ★★貴院ではテレパソロジーの運用は業務として認識されていますか。

（いずれかに○）

- 1 正式な業務と認められており、定常業務に組み込まれている。
- 2 正式な業務とは認められておらず、ボランティア的運営である。

(3) ★★テレパソロジーの運用は貴院にとって人的な面で負担になっていますか

（該当項目に○を付けてください）。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 非常に負担となっている | 2 やや負担が大きい |
| 3 負担を感じる | 4 余り負担に感じていない |
| 5 全く負担を感じない | |

★その理由は（ _____ ）

★また、月何件程度までならば負担とならずに実施可能ですか。

（ _____ 件／月まで）

(4) ★貴院ではテレパソロジーの運用には月々どの程度の費用がかかっていますか。

（ _____ 万円／月）

(5) ★テレパソロジーの実施により貴院には月々どの程度の収入がありますか。

（ _____ 円／月）

(6) ★★テレパソロジーの効果を点数でお答えください。

0：全く効果なし、1：やや効果あり、2：効果あり、3：顕著な効果あり

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 患者にとっての効果 | （点数： 0 1 2 3） |
| 2 医師や医療スタッフにとっての効果 | （点数： 0 1 2 3） |
| 3 貴院経営にとっての効果 | （点数： 0 1 2 3） |
| 4 地域医療にとっての効果 | （点数： 0 1 2 3） |

(7) ★★（依頼側施設の場合）テレパソロジーによる術中迅速診断を保険請求していますか。

（1 はい、 2 いいえ）

(8) ★★（依頼側施設の場合）診断側施設に術中迅速診断料を支払っていますか。

（1 はい、 2 いいえ） ★ → はいの場合（ _____ 円／件）

(9) ★★（診断側施設の場合）依頼側施設から術中迅速診断料を徴収していますか。

（1 はい、 2 いいえ） ★ → はいの場合（ _____ 円／件）

(10) ★★術中迅速診断を行う際に、患者さんにはテレパソロジーによる病理診断を行うことを説明し、同意を得ていますか（依頼側施設がお答えください）

(1 はい、 2 いいえ)

(11) ★★テレパソロジーによるコンサルテーションを実施していますか？

(1 有償で実施、 2 無償で実施、 3 実施していない)

→★有償の場合、1件あたりの料金は幾ら程度が妥当と思われますか

一般症例 (_____ 円)、難解症例 (_____ 円)

(12) ★★貴院ではテレパソロジー適用のガイドラインを定めていますか。

(1 はい、 2 いいえ、 3 検討中)

→★はいの場合、ガイドラインは公表可能ですか。可能でしたら本アンケート

の回答と一緒に1部お送りいただけませんか(1 はい、2 いいえ)

(13) ★★貴院では今後もテレパソロジーの運用を継続可能ですか。

(1 はい、 2 いいえ)

→★いいえの場合、継続できない理由は何ですか

(具体的に: _____)

(14) ★★テレパソロジーを止めた施設のみお答えください。

(止めた時期: _____年_____月)

(止めた理由: 具体的に _____)

6. ★テレパソロジーへの要望

テレパソロジーに関する要望等ありましたらご自由にお書きください。

(1) 自施設に対して

(2) 相手先施設に対して

(3) メーカー、システムの機能や仕様に対して

(4) 日本病理学会・日本テレパソロジー研究会・遠隔医療研究会等学術団体に対して

(5) 国や自治体に対して

ご協力ありがとうございました。

遠隔医療調査研究調査票

貴施設で複数種別の遠隔診療を実施の場合は、この用紙をコピーしていただき、それぞれ用紙を変えて登録して下さい（一連携施設毎に一枚ずつの調査票をお願いします）。

1. 運営者概要

(1) 施設名 ()

(2) 担当者氏名（要ふりがな） ()

(3) 担当者所属 ()

(4) 連絡先 電話番号 ()
電子メール ()

(5) 施設分類（下記から一つ選択してください） 回答欄 ()

- 1) 大学病院 2) 公的病院 3) 民間病院 4) 公的診療所 5) 民間診療所
6) 画像診断・読影センター（企業） 7) 個人事務所・企業 8) その他

(6) 病床数（下記から一つ選択してください） 回答欄 ()

- 1) 500床以上 2) 200床以上 3) 20床以上 4) 20床以下 5) なし

主要な連携施設名と担当者名の記載をお願いします。

(7) 施設名 ()

(8) 担当者氏名（要ふりがな） ()

(9) 担当者所属 ()

(10) 連絡先 電話番号 ()
電子メール ()

2. 遠隔医療の内容

2. 1 遠隔医療の主な目的

(複数の連携施設がそれぞれ別の目的がある場合は、お手数をおかけしますが、それぞれ別に登録して下さい)

- (1) 診断支援 (下記から一つ選択してください) 回答欄 ()
- 1) 放射線画像診断を依頼
 - 2) 放射線画像診断を行う
 - 3) 病理画像診断を依頼
 - 4) 病理画像診断を行う
 - 5) 診療コンサルテーションを依頼
 - 6) 診療コンサルテーションを行う
 - 7) その他 (その他の画像診断・診断支援) → 「(4) その他の遠隔医療」へ内容を記載願います。

- (2) 医療支援行為 (下記から一つ選択してください) 回答欄 ()
- 8) 手術指導を受ける
 - 9) 手術指導を行う
 - 10) カテーテルインターベンションの指導を受ける
 - 11) カテーテルインターベンションの指導を行う
 - 12) その他 (その他の医療支援行為) → 「(4) その他の遠隔医療」へ記載願います。→

- (3) テレケア (健康管理相談) (下記から一つ選択してください) 回答欄 ()
- 13) TV 電話などの画像を使う
 - 14) TV 電話は使わず生体情報 (血圧、心電図、酸素飽和度等) のみ
 - 15) その他 (その他のテレケア) → 「(4) その他の遠隔医療」へ記載願います。

- (4) その他の遠隔医療 (以下に内容を記述ください) ←

2. 2 主な利用機器 (下記から一つ選択してください) 回答欄 ()
- 1) テレビ電話
 - 2) パソコン
 - 3) 健康管理端末 (通信機能付血圧計、心電計等)
 - 4) 携帯電話
 - 5) 一般電話
 - 6) その他 (以下にご記述ください)

2. 3 遠隔医療の主な接続先 (下記から一つ選択してください) 回答欄 ()
- 1) 病院・診療所
 - 2) 保健・介護施設
 - 3) 利用者・患者宅
 - 4) 画像診断・読影センター
 - 5) その他 (以下にご記述ください)

2. 4 遠隔医療実施の主な診療科

- (1) 機器を実際に使用している方の所属 (下記から一つ選択してください) 回答欄 ()
- 1) 内科
 - 2) 小児科
 - 3) 皮膚科
 - 4) 精神科
 - 5) 放射線科
 - 6) 外科
 - 7) 整形外科
 - 8) 脳外科
 - 9) 歯科口腔外科
 - 10) 泌尿器科
 - 11) 眼科
 - 12) 耳鼻科
 - 13) 産婦人科
 - 14) 麻酔
 - 15) 保健・介護施設
 - 16) その他 (以下にご記述ください)

(2) 機器を実際に使用している方の職種（下記から一つ選択してください）回答欄（ ）

- 1) 医師 2) 看護師 3) 技師 4) 療法士 5) 保健師 6) 介護施設従業員
7) その他（以下にご記述ください）

2. 5 連携施設数あるいは接続家庭数（下記から一つ選択してください）回答欄（ ）

- 1) 1施設のみ 2) 2～5 3) 5～10 4) 10以上 5) 20以上 6) 50以上

2. 6 現在運用継続の場合、利用頻度（下記から一つ選択してください）回答欄（ ）

- 1) ほぼ毎日 2) 毎週数回 3) 毎月数回 4) 年に数回 5) それ以下

2. 7 機器を利用して情報交換した患者・利用者の一ヶ月間の概数

（下記から一つ選択してください）回答欄（ ）

- 1) 5人以下 2) 6～10人 3) 11～30人 4) 31～50 5) それ以上

2. 8 すでに終了の場合、運用期間（下記から一つ選択してください）回答欄（ ）

- 1) 数日 2) 数週間 3) 数ヶ月 4) 半年以上 5) 1年以上

2. 9 通信経路（下記から一つ選択してください）回答欄（ ）

- 1) ISDN 2) ADSL 3) CATV 4) 光ファイバー 5) 移動通信（携帯電話, PHS）
6) 一般電話回線 7) その他

2. 10 当該遠隔医療の有用度（主観的判断で結構です）

（下記から一つ選択してください）回答欄（ ）

- 1) 低い 2) やや低い 3) 普通 4) やや高い 5) 高い

2. 11 運用のための費用負担感（主観的判断で結構です）

（下記から一つ選択してください）回答欄（ ）

- 1) 低い 2) やや低い 3) 普通 4) やや高い 5) 高い

2. 12 遠隔医療から収入を得ているか

（下記から一つ選択してください）回答欄（ ）

- 1) なし 2) ごくわずか 3) 月額数万 4) 月額数十万 5) それ以上

2. 13 保険請求の有無

（下記から一つ選択してください）回答欄（ ）

- 1) なし 2) あり

3. 今後の遠隔医療に重要な事柄 (1 重要性は低い-3 どちらとも言えない-5 重要)

- 1) 診療報酬 (保険点数) 化 回答欄 (1・2・3・4・5)
- 2) 機器や回線利用料が高い 回答欄 (1・2・3・4・5)
- 3) 遠隔医療の効果の実証データ 回答欄 (1・2・3・4・5)
- 4) プライバシの保護 回答欄 (1・2・3・4・5)
- 5) 使い勝手の良い機器やサービス (企業によるサポート) 回答欄 (1・2・3・4・5)
- 6) 医療の質の担保 回答欄 (1・2・3・4・5)

4. 遠隔医療についてご自由に意見を記載して下さい。

5. 登録者氏名 _____ (回答日 _____ 年 _____ 月 _____ 日)

以上

平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金 医療技術総合評価事業
「遠隔医療の実施状況の実態調査」研究班（略称：遠隔医療調査研究班）
テレパソロジー実態調査について

拝啓

新年明けましておめでとうございます。貴院、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。本調査は平成 15 年度厚生労働科学研究・遠隔医療実態調査研究の一環として実施するものです。現在わが国で稼働中のテレパソロジーシステムについて、その導入の背景、利用状況及び導入効果を調査し、今後の利用普及支援策等検討の基礎資料と致します。テレパソロジーに関する調査がここ数年繰り返され、その導入背景や効果については他の遠隔医療と比較しても質、量ともに優れたデータが蓄積されてまいりました。その中で、今年度遠隔医療全体に関する悉皆調査が企画され、テレパソロジーにつきましても再度調査を実施することになりました。病理診断現場のご多忙の状況はよく理解しておりますが、何卒調査にご協力いただきますようお願いいたします。

調査票について、回答ご記入後、同封の返信用封筒にて下記宛 平成16年1月23日 (消印有効) までにお送りください。今回は悉皆調査ということで、期日までにご回答がない場合にはお電話にて確認させていただきたいと存じます。ご協力いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。また研究班公式ホームページに、今次研究班の概要等をご案内しております。併せてご覧ください。
貴院の更なるご発展を祈念いたします。

敬具

平成16年1月吉日
遠隔医療調査研究班班長 村瀬澄夫（信州大学医学部教授）

返信先：（同封の返信用封筒をお使いください）

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

信州大学医学部附属病院医療情報部内「遠隔医療調査研究班」事務局（担当 草深）

TEL 0263-37-3016 Fax 0263-37-3091

e-mail telmed-research@hsp.md.shinshu-u.ac.jp

研究班ホームページ: <http://sumis.md.shinshu-u.ac.jp/telemed/index.htm>

お問合せ先：オリンパス株式会社分析機開発部 東福寺幾夫

電話 055-973-1311

e-mail ikuo_tofukuji@ot.olympus.co.jp

平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金 医療技術総合評価事業
「遠隔医療の実施状況の実態調査」研究班（略称：遠隔医療調査研究班）
テレラジオロジー実態調査について

拝啓

新年明けましておめでとうございます。貴院、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。本調査は平成 15 年度厚生労働科学研究・遠隔医療実態調査研究の一環として実施するものです。現在わが国で稼働中のテレラジオロジー（遠隔画像診断）について、利用状況を調査し、今後の利用普及支援策等検討の基礎資料と致します。

テレラジオロジーをはじめとする遠隔医療について、実施状況に関する広範な調査、今後の課題への展望を得るためのデータは少なく、今次調査は多方面から期待されております。貴院につきましても、この趣旨にご賛同いただき、調査にご協力いただきたいと存じます。

調査票について、回答ご記入後、同封の返信用封筒にて下記宛 平成 16 年 1 月 23 日（消印有効） までにお送りくださるようお願い申し上げます。回答につき後日確認のお電話を差し上げるケースもございますので、ご了承いただきたいと思います。また研究班公式ホームページに、今次研究班の概要等をご案内しております。併せてご覧ください。貴院の更なるご発展を祈念いたします。

今回の調査につきましては、下記 URL からオンラインで回答いただくことも可能です。質問内容は全く同じですので、ご利用ください。オンライン回答された場合は、調査票の返信は不要となります。

敬具

平成 16 年 1 月 吉日

遠隔医療調査研究班班長 村瀬澄夫（信州大学医学部教授）

返信先、お問い合わせ先：

信州大学医学部附属病院医療情報部内「遠隔医療調査研究班」事務局（担当 草深）
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
Tel. 0263-37-3016 Fax 0263-37-3091

e-mail : telmed-research@hsp.md.shinshu-u.ac.jp

研究班ホームページ : <http://sumis.md.shinshu-u.ac.jp/telemed/index.htm>

回答用ホームページ : http://sumis.md.shinshu-u.ac.jp/telemed/telemed_study.html

同封の切手付き封筒を、返信にご利用ください。